

脱。プラ時流に呼応、産官学連携で実用化へ

A I P A 再生パルプをプラ原料に

古紙の回収と再生パルプの製造を行うA I P A(株)(四国中央市川之江町、伊藤俊一郎社長)は、再生パルプを使ったプラスチックの混練材の開発に乗り出す。脱プラの流れを受け、産官学連携で研究に取り組み、1〜2年内には販売できる体制を整えたい考え。

同社は四国中央市内の製紙会社らが共同出資し1969年に設立した愛媛パルプ協同組合が前身。今年6月に組織変更した。

古紙を使い製造する再生パルプの用途拡大を構想。脱プラの流れを受けて樹脂業界では自然由来の原料が注目されていることから、混練材の事業化を決めた。

樹脂原料に混ぜられるよう、出資先の製紙会社に供給しているパルプをさらに乾燥。加えて繊維を解きほぐし、綿状の混練材にする。均一に分散するための繊維の細かさや製品にした際の強度の調査を行い、用途に合わせた混練材を開発する。樹脂成形機で使用するペレット状



で供給する計画だ。

用途は車の内装部品や家具、建材などを想定。「牛乳パックのみを使ったパルプなら食品用にも使える可能性がある」と(同社)とする。

愛媛大学紙産業イノベーションセンターと県紙産業技術センターの協力を得て実用化を進める。来年初にはラボ機を導入。1年後には量産化できる技術を確立し、新工場の開設も視野に入れる。

製紙業界におけるパルプを使った混練材の開発は現在、性能が飛躍的に向上することが期待されるセルロースナノファイバー(CNF)が主流。だが価格面が課題という。再生パルプを使えばCNFより価格を抑え実用化が可能で、「脱炭素を推進する企業に提案したい」と(同)としている。

出店者募集!! 月々の料 無料 3日間まで

愛媛 いいもの! マルシェ
e-mono-ehime.com

通販初心者も 安心の配送システム

テレビ局の強みを 生かした販売促進

テレビ愛媛(いいものマルシェ)の お願い合わせ お申し込み **089-934-4147** (平日9:30~17:00)

サンヨー食品

東長戸店を移転、12月中旬オープン 松山市平田町に業務スーパー

(株)「四国中央市川之江町、森川恵二社長」は12月16日、松山市東長戸にある業務スーパーを同市平田町に移転オープンする。業務スーパーは(株)神戸物産(兵庫県)が展開する業務用食品チェーン。全国に約940店舗ある。牛乳パック型デザートや輸入菓子、冷凍食品など個性的な商品ラインナップで一般消費者の利用が増えているという。

「東長戸店」は2004年に開設。駐車場が20台しか収容できず、駐車場拡張のため移転を決めた。移転先は松山市平田町27-1。敷地面積3315平方メートル。建物は

Ageing Care E3

日本最大・1000坪級のエイジングケアパーク 松山三越にオープン

Ageing Care E3

鉄骨造2階建て。1階が駐車場で2階が店舗。売場面積は旧店舗の1.6倍となる837平方メートル。駐車場は80台。

店名は「松山平田店」に変更。商品は既存店と同様、食品や日用品、生鮮食品などを取りそろえる。神戸物産が展開する物産店「馳走菜」を併設。セミセルフレジを導入する。「県内で最大の店舗。通路幅を広く確保するのでゆっくりと買い物を楽しんでいただきたい」と(森川力部長)としている。東長戸店は12月12日まで営業する。

新居浜市内に社員寮 スカイテクノエンジニア

スカイテクノエンジニア(株)(新居浜市黒島、川又潤一社長)は、新居浜市多喜浜4に社員寮を建設する。建物は軽量鉄骨造2階建て、延床303平方メートル。総戸数は8戸(1K6戸、3K2戸)。来年3月の完成予定。